

国立研究開発法人国立がん研究センター理事会（平成28年度 第6回）議事録

日 時 平成28年9月30日（金）10：00～11：00

場 所 国立研究開発法人国立がん研究センター 第1会議室

出席者 中釜 斉理事長 門田 守人理事 児玉 安司理事 間野 博行理事
南 砂理事 小野 高史監事 増田 正志監事

欠席者 松本 洋一郎理事

議事概要

I. 理事会（平成28年度第5回）議事録の確認

- ・議事録について、資料のとおり了承された。
- ・議事録署名人を間野博行理事と小野高史監事をお願いした。

II. 審議事項 なし

III. 報告事項

1. がん診療連携拠点病院院内がん登録全国集計報告

資料に基づき報告を行った。

2016年がん診療連携拠点病院等院内がん登録全国集計報告として腫瘍5部位のほか7部位について施設別に集計し、報告書にまとめ9月26日にHPサイトに掲載した。

以下の意見が出された。

- ・医療機関ごとのデータについて、症例数の多い病院に患者が集まりやすいが、情報を幅広く分かりやすく提供し、数だけでなく質も反映できる方向を目指すべき。
- ・希少がん等については集約化が必要である一方、一般的ながんについては引き続き均てん化が重要。

2. 受動喫煙の発表に対するJTコメントへの対応

資料に基づき報告された。

・当センターによる受動喫煙リスクに関する報告（8月30日）に対し、JTが社長コメントを公表したが、科学的な理解に立っておらず、受動喫煙の害を軽く考える結論が示されていることから、資料のような見解を改めて公表した。厚生労働省は、さらに積極的な反論までは行わない方針。

以下の意見が出された。

- ・HPに載せるだけでなく、国会で取り上げてもらうなど、もっと大きな問題としていく方が良いのではないか。
- ・オリンピックに向けて、受動喫煙の禁止当の法制化をめざす動きがある。
- ・JTは科学的根拠に反していたので正すための見解を示した。欧米のたばこ会社は訴

訟で負けていることもあり、健康被害を公式に認めているが、日本では訴訟に負けていない状況もあるので認めていない。

3. 免疫ゲノム研究プロジェクト

G R I P (Genomics-driven cancer Research for ImmunoProfiling)

資料に基づき報告された

- ・NCCが誇るゲノム研究と免疫研究、臨床とが一体的に連携し、免疫療法の個別化医療の実現に正面から取り組むプロジェクトを行う。

- ・免疫チェックポイント阻害剤に対する有効なバイオマーカーの開発を目指す。

以下の意見がだされた。

- ・世界的なテーマであるが、国がん単独で行うのではなく、体制を作って指導的立場でいって欲しい。

- ・幅広い施設の参加が必要であり、ネットワークにより臨床研究を進めたいと考えている。

4. 日米韓保健大臣会合等

資料に基づき報告された。

9月19日ニューヨークにおいて、バイデン米副大統領のがん撲滅ムーンショット・イニシアティブに関する日米韓保健大臣会合が開催された。

がんムーンショット・イニシアティブへの支援に向けて、三カ国の協力のあり方について議論し、日本からは、厚生労働大臣、AMED理事長、当センターから中釜理事長、間野研究所長が参加した。

①がん研究へのさらなる支援 ②予防・検診・診断の拡大 ③データの国際的な標準化・共有について意見交換され、統合的・学術的な国際コンソーシアムを構築し、データ共有等によりプロテオゲノミクス研究を促進することなどについて合意された。

5. がん対策推進協議会等の動き

資料に基づき報告された。

がん対策推進協議会(8月26日)において、「第3期がん対策推進基本計画に向けた課題について」理事長よりプレゼンが行われた。

「個人情報保護に関する法律施行令の一部を改正する政令(案)」及び「個人情報保護に関する法律施行規則(案)」に関する意見募集に対し、6NC理事長名で意見を提出した。

以下の意見がだされた。

- ・個人情報に関する内閣府のWGに参加しているが、法律の規定では、大学その他を含め学術研究情報に適用しないとされているにもかかわらず、それと異なる方向で議論さ

れているので、問題が大きい旨主張している。

6. 平成29年度予算概算要求

厚生労働省及び内閣官房（医療分野の研究開発関連）の平成29年度予算概算要求の概要について、資料に基づき報告された。

7. 広報実績について

- ・8月20日から9月23日までのプレスリリース、取材申込み等について報告された。

8. 8月分月次決算について

- ・平成28年8月次決算等について報告された。